

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	令和4年5月24日 ～ 令和5年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》</p> <p>I. 教育課程に関すること</p> <p>II. 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>I. 教育課程に関すること</p> <p>① 校外に学びの場を広げて、知見を豊かにする工夫のあり方</p> <p>② 表現活動の発表の場を多く設けて、自尊感情を高める工夫のあり方</p> <p>II. 広報・相談体制の充実にに関すること</p> <p>① 文字情報による広報から取り残されがちな、識字・日本語理解面で課題のある方々に対する、広報のあり方</p> <p>② 日本語理解に課題のある外国籍の生徒や入学希望者を対象とする相談活動のあり方。特に、通訳者や翻訳文による効果的な支援について</p> <p>IV. 教職員の配置・研修に関すること</p> <p style="text-align: center;">生徒理解に役立つ教職員研修のあり方</p>
調査研究の成果	<p>I. 教育課程に関すること</p> <p>① 校外に学びの場を広げて、知見を豊かにする工夫のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春の校外学習では、大阪市立阿倍野防災センタータスカルにおいて、体験型学習を通して、地震、津波、火災などの災害の恐ろしさと、災害にあった時の望ましい行動等について学ぶことができた。</li> <li>・ 秋の学習旅行では、奈良県橿原市の水平社博物館において、差別の現実、基本的人権の尊重、水平社宣言等について学び、ワールド牧場において、さまざまな動物を観察しながら、動物との触れ合いを体験することができた。</li> </ul> <p>② 表現活動の発表の場を多く設けて、自尊感情を高める工夫のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近畿夜間中学校連絡協議会と生徒会連合会の共催である、新入生歓迎集会、連合運動会、連合作品展の三つの行事に参加して、他の夜間中学の生徒と交流することによっ</li> </ul>

て、同じ思いで学ぶ多くの人が存在することを実感することができ、自らも学ぶ意欲を高めたり、学び続ける自信を深めることができた。また自己を表現することで、自己肯定感を高めることができた。

- ・ 上記3行事に加え、総合学習発表会、校内作品展、市内6か所（公民館1・図書館4・国際交流センター1）での校外作品展等を、表現活動の発表の場として設定し、参観者からの感想文という形で評価を聞くことができ、自己肯定感を高めることができた。
- ・ 全国夜間中学校研究大会に参加して、生徒体験発表から表現活動が生徒の自尊感情を高めるという事例を学ぶことができた。また、生徒会活動も、生徒の知見を広め、自尊感情を高めることにつながるという事例も学ぶことができた。

## II. 広報・相談体制の充実に関すること

1 文字情報による広報から取り残されがちな、識字・日本語理解面で課題のある方々に対する、広報のあり方

- ・ 本市及び近隣市町に、入学者募集情報の広報誌への掲載を依頼した。その結果、掲載時期に合わせて、「広報誌で知った」という理由で入学希望意思を伝えてくる方が増える傾向がみられ、非常に有効であった。
- ・ 豊中市役所の市民課窓口のロビーにある大型モニターに「やかんちゅうがくせいとぼしゅう いっしょにまなびませんか」の文字とカラーのイメージ映像を約半年間フラッシュ投影し続け、視覚に訴えた広報を行った。これによって、文字情報から取り残されがちな、識字・日本語理解面で課題のある方々に対する広報の一つのスタイルを実施できた。
- ・ 市内の私鉄駅のうち最も乗降客数が多い阪急電鉄庄内駅駅頭にて、教職員、生徒共同で、入学者募集広報活動（ビラ配り）を行い、識字の面で課題を抱えていて文字情報から取り残されがちな方々にも、言葉掛けによって、情報を伝えることができた。
- ・ 市内6か所での校外作品展は、市民に対する広報の役割も果たしているが、各会場で、生徒作品と合わせて、生徒

の学校生活の写真で構成した大型の掲示物（豊中市立第四中学校夜間学級の学校案内）を掲出したものが、見学者の目によく留まり、視覚に訴える広報媒体として機能していたことが、見学者が残した感想文から伺えた。

- ・ 愛知県の地方都市及び大阪府内で夜間中学新設を検討している自治体より行政視察を受け入れ、また新聞社1社の取材を受け入れた。これを通して、夜間中学の存在を未だ知らない潜在的な入学希望者にまで、夜間中学の情報を伝える一助となることが期待できる。
- ・ 全国夜間中学校研究大会に参加して、文部科学省からの報告、夜間中学新設校による報告等を聞き、意見交換する中で、多様なニーズを丁寧に掘り起こして就学につなぐことができるような広報の重要性を、課題として学んだ。

2 日本語理解に課題のある外国籍の生徒や入学希望者を対象とする相談活動のあり方。特に、通訳者や翻訳文による効果的な支援について

- ・ 日本語理解に課題のある外国籍の入学希望者の面談時と生徒の学期末懇談・進路懇談・学校内科医及び学校歯科医による検診時には、必ず通訳者の派遣を手配し、通訳者同席の上で実施することによって、きめの細かい支援につなげることができた。面談や懇談実施後に行ったアンケートでは、通訳者が同席したことで「とても役立った」という回答が75%、「少し役立った」という回答と合わせると100%であった。
- ・ 日本スポーツ振興センター加入関連文書、個人情報保護関連文書を多国語に翻訳し、生徒との種々の情報のやり取りで使用する翻訳文書類を充実させた。翻訳文書を活用し生徒とやり取りすることで、齟齬のない確実な意思の疎通ができた。

#### IV. 教職員の配置・研修に関すること

- ・ 5月、6月には、生徒一人ひとりの学習・健康・家庭・就労等の情報を整理・共有し、また、7月、12月には、学期末懇談で得た情報を整理・共有し、個に応じた学習支援と生徒支援の要点について、共通認識を持つことができた。

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新聞社記者を講師に招聘し、ハンセン病に関わったのが国の隔離政策の歴史や、予防法廃止後の現況、その間の患者と家族の置かれた立場、心情等について学びながら、ハンセン病という病気を理由にした差別のみならず、広く差別、人権侵害に目を向け、夜間中学にも少なからず在籍している、差別、人権侵害を受けて学ぶ機会を奪われてきた人々の立場を理解し、夜間中学の教職員の役割について改めて学ぶことができた。</li></ul> |
|--|--|